

[042] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10229>

出版情報：語文研究. 42, 1976-12-01. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

学会彙報

▼講義題目 昭和50年度第2学期

(大学院)	国語学特研	国語学史「詞の玉緒」	春日	教授
(大学院)	演習	国語資料の研究	春日	教授
(大学院)	特講	古代日本語の研究 ―位相に関する諸問題―	春日	教授
(学部)	演習	万葉集卷十一	春日	教授
(大学院)	特研	アクセント史	奥村助教	教授
(大学院)	演習	国語学の諸問題	奥村助教	教授
(大学院)	特講	国語史と方言研究	奥村助教	教授
(学部)	演習	近世語	奥村助教	教授
(大学院)	国文学特研	平安朝文学の諸問題	今井	教授
(大学院)	演習	我身にたどる姫君	今井	教授
(大学院)	特講	平安朝文学史 (平安朝漢文伝の研究)	今井	教授
(学部)	演習	源氏物語、浮舟巻	今井	教授
(大学院)	演習	浮世草子	中野助教	教授
(大学院)	特講	近世文学の背景	中野助教	教授
(学部)	演習	西鶴	中野助教	教授
(大学院)	演習	近代小説研究	重松	教授
(大学院)	演習	近代文学作品論	重松	教授
(学部)	講義	近代詩研究	福岡大教授	講師

▼昭和50年度卒業論文題目

学部	坂口安吾研究	花田 俊典
	源氏物語表現論	福寿貴美子
	中島敦論	和田 直樹
	万葉集における訓仮名について	秋吉 望
	太宰治の作品における女性像	生駒美由記
	芥川龍之介の児童文学について	松田登美恵
	大分市の方言	釘宮せつ子
	木俣修歌集「呼べば笏」論	後藤 信子
	万葉集における清濁表記について	崎村 弘文
	川端康成「掌の小説」	新内としえ
	源氏物語構想論	田坂 憲二
	三島由紀夫「仮面の告白」	和田みつる
	修士	
	源氏物語の研究	中島あや子
	伊東静雄研究	赤塚 正幸
	福岡県北部地域方言にみられるアクセントの諸相	稲川 順一
	十訓抄の国語学的研究	檜田 良照
	上方板洒落本の研究	矢野 準

▼九大国語国文学会総会並びに研究発表会

研究発表題目
源氏物語「東の院」の構想論的性格

昭和51年6月13日

田坂 憲二

安吾文学の一考察

—《説話形式の作品》の登場について— 花田 俊典

万葉集の用字にあらわれた語意識

—助詞・助動詞について— 秋吉 望

新撰字鏡卷一の和訓について

—名義抄と比較して— 高瀬 正一

「かたこと」の俗語批判をめぐって

田籠 博

平家物語南都本の一面

—撰政落ち留まりについて— 橋口 晋作

夏目漱石と菅虎雄—全集未収録菅虎雄あて漱石書

簡の紹介をかねて— 原武 哲

長崎一見と一見狂歌集

大内 初夫

くちなし
支子文庫本「大和物語」について

今井 源衛

▼第二十六回西日本国語国文学会

昭和五十一年九月二十五・二十六日

於宮崎大学

研究発表(本会会員関係)

石川淳「森鷗外」の検討

蓮田善明「鷗外の方法」との比較を中心に 狩野 啓子

名古屋の洒落本について

矢野 準

近世紀行文学の要案

願属のあゆみについて—「何ぼや」を中心に—

板坂 耀子

巨勢識人考—嵯峨朝文壇の詩人—

佐田 智明

「笑う・払う」をワルー・ハルーということについて

金原 理

▼卒業論文相談会 昭和五十一年五月八日

上村 孝一

ち両者の和訓の適否や又両者に属さない第三本の想定等が必要
な訳であるが、今回は形式を中心とした周辺の論に偏して触れ
ることがなかった。これらについての考察は別の機会に俟た
い。

注

- (1) 「国語学辞典」ペ560「新撰字鏡」の項参照。
- (2) 貞刈伊徳「新撰字鏡の解剖」(「訓点語と訓点資料」12・14・15輯)
築島裕「平安時代語新論」ペ173参照。
- (3) 阪倉篤義「新撰字鏡(増訂版)」の解題ペ6参照。
- (4) 小林芳規「新撰字鏡における和訓表記の漢字について」(「文学」49年6月)
の定義を参考とした。
- (5) 前掲注(2)論文15輯の「新撰字鏡部首別総字数一覽」参照。
- (6) 前掲注(4)の解題ペ15・16参照。
- (7) 以下部首番号の引用の際、天治本はそのまま享和本は括弧にくることとする
尤も標出字は天治本に存在する。ただ和訓の記載だけがない場合である。
- (8) ここでは標出字を単位としているため例えば享和本「距」天治本「距」で
「距」字は天治本には記載がない字ではあるがこの様な場合対応が見られるため
この例としない。
- (9) 順に「新撰字鏡国語索引」「倭名類聚抄・索引」「類聚名義抄・索引」に拠る。
- (10) 阪倉篤義「新撰字鏡の再検討」ペ369参照。(「本邦辞書史論叢」所収)
- (11) 番号は表(2)中の当該番号をすす。
- (12) 高松政雄「新撰字鏡小学篇について」(「訓点語と訓点資料」41輯)以下「小
学篇」字についてはこれを参考とした。

追記

末筆ながら、本稿をなすにあたって御教示を賜った春日和男先
生に對して深甚の謝意を表します。

受贈雑誌(昭和五十年十一月～五十二年六月) ①

- 愛知県立大学説林24／青山語文6／菅屋ゼミ2／愛媛国文研究25／
愛媛国文と教育7／愛媛大学法文学部論集8／演劇学(早大演劇学
会)17／大阪樟蔭女子大学論集13／沖繩国際大学文学部紀要4巻1
2／会誌語学と文学(九州女子大・女子短大)6／会報(大学基準
協会)30／学園論集2728／学芸国語国文学12／学習院大学国語国文
学会誌19／學術研究(早大教育)24／学大国文(阪教大)19／鹿兒
島大学文科報告11／鹿兒島大学法文学部紀要文学科論集11／金沢大
学教育学部紀要24／金沢大学教養部論集13／金沢大学国語国文5／
金沢文庫21巻112・22巻123／岐阜大学国語国文学12／九州文化
史研究所紀要21／紀要(中央大)7879／金城国文52／近世文芸ノ
ト(牛王の会)2／近代文学論(同人会)7／近代文学論集日本近
代文学会九州支部)1／訓点語と訓点資料57／研究紀要(阪大医療
短)8／研究紀要(静岡女子大)9／研究集録(阪大教養)24／研
究年報(学習院大)22／研究論集(開成学園)3／言語文化(一橋
大)12／皇学館論叢8巻56・9巻1／高知大国文6／甲南国文23
／国学院雑誌76巻12・77巻12345／国学院大学紀要14／国学院
大学日本文化研究所報11巻1／国語学104／国語研究(九州大谷短
大)4／国語国文44巻112・45巻1234／国語国文学報(愛知教
育大)29／国語国文学研究(熊大法文)10／国語国文研究(北大)
5455／国語国文研究と教育(熊大教育)4／国語国文論集(安田女
子大)6／国語国文論集(学習院女子短大)5／国語と教育(阪教
大)56／国語と国文学52巻12・53巻123456／国語の研究(大
分大)9／国文(お茶の水)44／国文学研究(早大)5859／国文
学研究資料館紀要2／国文学研究資料館報6

中にちゝぶはししてんのかくのまへめしいたされ候てみてもあかさるしけたゝをゑつにうつしておかんとてししてんのかくのまにかくのみきにかゝせられ見たくおほしめすときはかのししてんのかくのまへみゆきならせ給ひてゑいらんあるとそきこへけるさてくそこのちにかまから殿う大しやうのこりやうにくはんとならせたまひてくにくの大みやうせうみやうにをのくはんとをくたされけりよりの御ゑいくは申はかりもなかりけり

受贈雜誌 (昭和五十年十一月〜五十一年六月) ②

国文学研究ノート (神戸大同会) 56 / 国文学言語と文芸 80 / 国文学放 69 / 国文学論叢 (龍谷大) 2021 / 国文白百合 7 / 国文目白 15 / 国立国語研究所年報 26 / 古典と民俗 (関西学院大本位田研) 2 / 語文研究 41 / 駒沢国文 13 / 佐賀大國文 3 / 札幌大学教養部・女子短大部紀要 8 / 薩摩路 20 / 滋賀大國文 13 / 静岡女子大学国文研究 9 / 実践国文学 8 / 島大國文 45 / 淑徳国文 17 / 上智大学国文学論集 9 / 女子大國文 (京都女子大) 78 / 女子大文学 (大阪女子大) 27 / 人文研究 (神奈川大) 63 / 人文研究 (大阪市立大) 27 卷 9 / 人文論究 (関西学院大) 25 卷 2 3 4 / 人文論集 (静岡大) 26 / 親和国文 10 / 成蹊大学文学部紀要 11 / 成城国文学論集 8 / 清泉女子大学紀要 23 / 西南文学 3 / 専修国文 18 / 高崎経済大学論集 18 卷 2 3 (合) 4 / 樽 (樽の会) 2 / 地域文化研究 (甲南大同会) 1 / 中世文芸論稿 (龍谷大説話会) 1 / 潮音 62 卷 1 / 肇国 381 382 385 386 387 388 / 鶴見大学紀要 13 の 1 / 帝塚山学院大学日本文学研究 7 / 同志社国文学 11 / 藤女子大学国文学雑誌 18 / 東北大学文学部研究年報 25 / 同朋国文 8 9 / 東

横国文学 8 / 徳島大学芸紀要 25 / 都大論究 12 / 富山大学文学部国文学科紀要 3 / 都立大学方言学会会報 66 / 名古屋大学国語国文学 37 / 名古屋大学文学部研究論集 23 / 並木の里 11 / 日本学術会議月報 16 卷 11・17 卷 1 3 / 日本女子大学紀要 24 / 日本文学研究 (大東文化大) 9 10 11 特 15 / 日本文学研究 (梅光女学院大) 11 / 日本文学研究 (高知大同会) 13 / 日本文学研究 (同会) 3 / 日本文学ノート (宮城学院女子大) 33 / 能楽研究 2 / 梅花女子大学文学部紀要 12 / 白路 30 卷 12・31 卷 1 2 3 4 5 6 / 殖生野国文 6 / 比較文学年誌 12 / 一橋論叢 74 卷 5 6・75 卷 1 2 3 / ヒブリア 62 / 広島女学院大学国語国文学会誌 5 / 広島女子大学文学部紀要 11 / 文化 (東北大) 39 卷 3 4 (合) / 文学研究 (九大) 73 / 文学史研究 (阪市大) 16 / 文学年誌 (文学批評の会) 1 / 文学論輯 (九大教養) 23 / 文学論藻 (東洋大) 50 / 文化と言語 (札幌大外語) 9 卷 1 2 / 文教国文学 4 / 文経論叢 (弘前大) 11 卷 3 / 文芸研究 (東北大) 80 81 / 文芸研究 (明治大) 34 35 / 文芸と思想 40 / 文芸と批評 4 卷 4 5 / 文芸論叢 (大谷大) 6 / 文献ジャーナル 14 卷 9 11 12・15 卷 1 2 3 4 5 / 平安朝文学研究 3 卷 2 7 / 別府大学国語国文学 17 / 待兼山論叢 9 / 万葉 90 91 / 宮城教育大学国語国文 7 / 武庫川国文 8 9 / 明治大学人文科学研究年報 16 / 野州国文学 16 / 山口大学文学会誌 26 / 立命館文学 358 359 (合) 360 361 (合) 362 363 (合) 364 366 (合) 367 368 (合) / 論究日本文学 39 / 和洋国文研究 11

受贈抜刷

球磨・人吉弁小考 一助詞・二助動詞 東 秀吉

れの新見が見られるが、中でも日本靈異記を「私度僧の文学」とする通説に対してそれを否定し、「等流果（因に依じて果が来る）の文学」と規定している点は注目すべきであろう。（著者には、本書執筆後「日本靈異記 等流果の文学」愛知県立大学十周年記念論集 の論あり。併せて参照せられたし。）著者の所論は既述のごとく実証的で手堅く説得力がある。本書の跋によれば、著者の靈異記研究はこれのみにとどまらず、「いづれはこのペンで、日本靈異記を文芸として遇する注釈書を書かねばならない」との由である。一日も早くそれが実現せられんことを鶴首して待ち望む次第である。最後に、要領を得ない紹介に終って本書の真価を十分伝え得なかったのではないかと思う。その点御海容をいたゞければ幸いである。

（昭和五十一年一月 風間書房 五六四頁 一一四〇〇円）

受贈図書（昭和五十年四月〜五十一年三月）

日本古典文学大系 30 50 58 81 巻

日本靈異記の研究

一九四七年 2

關門海峡周辺方言地図

大衆歌集

日本近代文学大系 別巻総索引

宮沢賢治論

日本庶民文化史料集成 第七巻

説話の語文

広島県太田川上流域言語地図集

京都語辞典

国語学国文学科 昭和四十九年三月卒業生一同

八木 毅
青山 光雄
宮本 登
坂井 大衆
角川 書店
境 忠一
横山 正
春日 和男
柴田 武
井之口 有一

法華百座聞書抄総索引

梁塵秘抄総索引

五山版（善本写真集 43）

泰西日本記集 2（同右 44）

安西文庫目録

日本の空（歌集）

副林金玉集下巻（宮内庁書陵部）
図書寮叢刊

上代文学論集（吉永登先生古稀記念）

日本語の系統論的研究

国文学研究文献目録 昭和 47 年

自行三時礼功德義総索引（吳文炳氏蔵本）

王朝 第八冊

「毛吹草」ことわざ索引

上代日本語音韻の一研究（神戸学術叢書 4）

近代詩と反近代

宇治拾遺物語上（校注古典叢書）

古刊朝鮮本（善本写真集 39）

泰西中国記集（同右 40）

古日記（同右 41）

本邦刊英語学書（幕末・明治初期）同右 42

Shimada, Shohei : The fushikaden

Gaidagis, Nicos : Catalogul Cartilor Grecesti

de la Biblioteca centrala universitara

"M. Eminescu"—Iasi, Vol. 1.

(Sec. XVI—XVII).

Biblio.....centrala univ. "M.Eminescu"

長尾 宏

天理 図書館

堺市立図書館

伊吹 高吉

宮内庁書陵部

関西大学国文学会

福田 昆之

国文学研究資料館

三保 忠天

王朝文学協会

堀 章男

神戸学術出版

境 忠一

長野 書一

天理 図書館

"

"

"

Shimada Shohei

"

"

"

"

"

"

"

"